



「入れて！」「いいよー、一緒にやろうよ！」

暑さの影響で、外で遊ぶことがなかなか難しい日が続いています。そんなとき、子どもたちが休み時間をどう過ごしているのかをご紹介します。

休み時間は、ラーニングコモンズ、教室、図書館などで過ごす子が多いです。なかでも教室では今、ソーラン節が流行っています。練習はまだ始めていないのですが、**見本の動画を流すと、自分たちで踊り始めるのです。**「ソーラン、ソーラン」という掛け声も大きく、こちらまで元気になります。知らない間に人数が増え、クラスを問わず20人ほどで踊っていることもあります。スポーツフェスティバル本番までまだ1か月半ほどありますが、今から楽しみです。

もうひとつ流行っているのが、花いちもんめなどの伝承遊びです。

ある日のマイタイムでのこと。2年1組で、3人から始まった花いちもんめに、「おはようございまーす、入れてー」と次々に人が加わっていきました。最終的には20人ほどになり、「勝って嬉しい花いちもんめ」と大声で歌いながら遊んでいました。

そのとき飛び交っていたのが、「入れて！」「いいよー、一緒にやろうよ！」という言葉です。この一言が自然に出てくることが、何より嬉しく思えました。

実は、こうした手をつないで体を動かす遊びは、子ども同士の距離を縮めるうえでとても有効です。カウンセリングの分野には「構成的グループエンカウンター」という、人間関係づくりを目的に集団で課題に取り組む手法がありますが、そこで使われる活動も、手をつなぐ・声を合わせるといった伝承遊びによく似ています。**言葉で「仲良くしましょう」と伝えるより、一緒に手をつないで声を出すほうが、ずっと早く距離が縮まります。**

つまり子どもたちは、**遊びながら、自分たちで関係を耕している**ということです。だからこそ、こうした遊びが自然に生まれてくる空気を、大切に守っていきたいと思っています。

ブームはきっとすぐに過ぎ去っていくのでしょう。それでも、この夏の教室にこんな光景があったことを、お伝えしたくなりました。

いつも子どもたちを送り出してくださり、ありがとうございます。

教室で遊ぶ様子





ソーラン節の様子



花いちもんめの様子

